

広袴便り

会 内 町 袴 広
会 報 新 年 会

発行日
平成 22 年 1 月 1 日

発行責任者
会 内 町 袴 広
会 員 義 目 夏



新年のご挨拶

明

けましておめでとございます。町内会の皆様におかれましては、よき御年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の世情は、変革の兆しはあったものの将来に対する不安感が増すばかりでした。

今年庚寅（かのえとら）の年で、従来の事象を改め、筋道を付けていく年だそうです。何とか希望の見える流れになって欲しいと願うばかりです。

さて、昨年会長拜命にあたり、当広袴の町づくりのコンセプトとして五つの柱を明確にし、改めて皆さんと確認をしました。それは以下のようなものでした。

- 1 安心、安全な町
- 2 御近所の触れ合いのある町
- 3 子供、お年寄りを大切に作る町
- 4 きれいで清潔な町
- 5 伝統、文化を大切にする町

そして、これを皆様に共有していただき、皆様が主役で身近なところから町づくりに参画していただき、という思いを込めていました。

お陰さまで昨年は、いろいろなグループの方々および会員の皆様方が中心となって、町内会行事を盛り上げてくれました。もちろん、役員の方々も懸命な努力をしてくれました。皆様に心から感謝申し上げます。

ささやかですが嬉しい例を一つ御紹介しよう。作品展示会に合わせて有志の方々がフリーマーケットを立ち上げてくれました。一方、6組には一人でコツコツと野菜作りに精を出しておられるおばさんがいます。当日も、キャベツ、ニンジン他10種類ぐらいの朝採り野菜を家の前に並べておられましたので、尻込みするおばさんを無視して全部強奪し（？）マーケットに並べました。が、売りがいません。どうしようかと思っていた矢先、窮状を察して突然子ども会の役員の小学生のお嬢さんが声を張り上げてくれました。

「採りたての野菜だよー！ 安くておいしいよー！」

微笑ましい声につられてお客さんたちもニコニコ集まってきて、あっという間に完売になってしまいました。当日フリマで最高の売上高でした。後で農家のおばさんにも大変喜んでもらえました。

マーケットの主催者、売子になってくれた子供さん、農家のおばさん、お客さんたち……

最初から仕組んだものではなく、自然発生的に生まれた、心温まる人の輪でした。

翻って、前述の町づくりも、いろいろな町内会行事がベースになることは言うまでもありませんが、それ以上に、ちょっとした触れ合い、たとえば、お茶やお酒を飲んだり、旅行をしたり、麻雀、トランプ、ゴルフをしたり、書画等の趣味を楽しんだりする人の輪から生まれる温かくて前向きな人間関係が培われていることが一番大切なことだと思います。まず色々やって輪を広げましょう。

私の今年の目標は、一人でも多く町内会の人と知り合うことという、ごく簡単なことにしたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

【夏目義久】

お神輿と山車が町内を練り歩きました

神明社御祭礼

昨年9月13日（日）、神明社御祭礼が執り行われました。式典は10時より行われ、お神輿・山車は13時より出発巡行されました。神明社氏子に町内会会員が挙って参加し大勢の子供達が手と手に山車の綱のぬくもりを繋ぎながら町内を練り歩きました。

秋

になると何処からか笛や太鼓の音が聞こえてくる。なんとなく郷愁を感じ、「ふるさと」をおもわせてくれる。もちろんお宮の森から聞こえてくるお囃子の音だ。いわゆる宗教心をこえて、誰にとっても懐かしい響きだ。



日本人にとって「お祭り」は宗教ではなく、一年の生活に溶け込んだ生活行事なのだ。弥生時代から連綿と続く農業社会の日本では、「大自然」の力がすべてのたよりだった。だから自然への畏れと敬いはすべての人がもっていた。そういうことが一年の生活行事を生み出した。悪疫・病魔の退散を念し、その年の豊年満作をいのるものだ。現在はそれが伝統化して「民俗行事」とよばれるが、それらは狭い意味の宗教行事ではない。正月行事がそのもつとも代表的なものだろう。

お宮自体の式典などは、神社神道のものだが、囃子をやり、お神輿をかつぎ、山車を引っ張ってみ



なで大騒ぎする——こういう「お祭り騒ぎ」は村のみんなのものなのだ。みなでお祭り騒ぎをするこゝとで、共同体のつながりが強められるのだ。結論的に再度云えば、「お祭りは自然を敬い、共同体（村・町）のつながりを強化する地域行事である」ということだ。お宮の宗教行事と狭くうけとってほしくない。行事のために「花」をつくり「あんどん」に絵をかき、囃子にはやしたてられながら山車を引いたお祭り騒ぎの思い出は、子どもたちの心にふかく刻まれて残るだろう。

話を転じて、「祭囃子」の話を少々。明治22年、小野路・野津田・大蔵・金井・能ヶ谷・三輪・真光寺・広袴の八村が合併して「鶴川村」が誕生した。その村々がかつてはみな祭囃子の「連」をもっていた。残念ながら真光寺と広袴には現在は囃子は伝わっていない。しかしそのほかの地区には祭囃子の連中が存在して、みな賑やかにやっている。この辺の囃子は「江戸系五人囃子」で、大太鼓（オード）一丁、締め太鼓（小太鼓）二丁、摺り鉦一丁、笛一丁の五人ではやす。曲目は「ヤタイ（ハヤ）・シヨウデム・カマクラ・シチヨウメ・ハヤ」が基本で、そのほかにインバという踊りの曲がつく。

練習は神社の稽古場な

どで、割り竹を叩くことから始まる。現在は古タイヤを叩いている。譜面というものが無いから、師匠からすべて口伝で教わる。「口唱歌」というものがあり、それによって太鼓も笛も教えられる。

太鼓だと「スケテン テレスク テレスク スッテン」とか、笛ならば「チヨヒ チヨヒョーヒヤラヒヤラヒョーヒヤラ」などという形で覚えて行く。各個人が習い覚えたあと「摺り合わせ」にすむ。まず小太鼓の二人（カシラとウケ）が合わせ、その二人が大太鼓と合わせ、最後に太鼓が笛に合わせて完成ということになる。鉦が笛・太鼓の間を総て叩く。こうして五人の合奏が成り立つまでには、なかなか大変な稽古が積み重ねられるのだ。

この秋も各地のお宮の森から、郷愁をさそう囃子の音が聞こえてくるだろう。 【八組 金子欣三】

広袴町内会から15名参加！ 鶴川地区市民運動会

♪町田市歌♪

大富士はるか 朝あけの
雲は飛ぶ飛ぶ 陽はおどる
ああ建設の 意気に燃え
栄えある歴史 汚さじと
市民ぞわれら こぞり起つ
町田 町田 われらの町田

9 月27日（日）、時折青空の覗くスポーツ日和の野津田公園陸上競技場において、町田市地区市民運動会が開催されました。

開会宣言、国旗・市旗掲揚に続いて町田市歌が斉唱されました。

広袴町内会は、大会本部横の会場のほぼ真ん中に陣取り、山路文化部長を中心とした役員誘導で、プログラムの進行に整然と協力をしました。

例年のことではありませんが、本年も「子ども会」に中心的な役割を担っていただき、広袴町内会は総勢115名で参加し、全種目に出場しました。

遊戯的な種目はのんびりとした観戦ですが、町内会対抗の競技になると、トラックに身を乗り出しての応援となり、時には、競技審判から注意を受ける場面もあるほどの熱気でした。

競技はプログラムに沿って進められ、日ごろの運動不足を痛感したレースや少し頭を使った競技など、バラエティーに富んだ内容でした。

「釣りバカ日誌」鶴川版の「魚釣り競走」では、夏目会長を先頭に参加し、真剣な眼差しのお公望、さて、何を釣り上げたのでしょうか？

60歳以上の「ゲートボール遊び」は十名で参加、



1	準備体操	10	消防団紹介
2	50m走ってみよう	11	孫と一緒に
3	魚釣り競走	12	民謡踊り
4	おみやげなかに	13	二人三脚
5	100m走ってみよう	14	ボール運び
6	物干しリレー	15	ゲートボール遊び
7	800m競走	16	買い物競走
8	母子リレー	17	フォークダンス
9	ウルトラクイズ大会	18	町内会・自治会リレー

通常のゲートボール道具を使つてのリレーでしたが、経験のある人、スティックの持ち方も分からぬ全くの素人入り乱れてのチームで、ゲートを通すのに苦労しましたが、我が広袴チームは、まとまりと連携のよさで、一番早いゴールを決めました。

子ども達とペアを組んでの「孫と一緒に」の玉入れ競技では、赤・白に分かれて、広袴チームは赤組で、一回目は惜敗しました。二回目は子ども達の提

案で、子ども達が玉を運び、背の高い大人がかごに入れる作戦を取り、どんだん玉が入り、圧勝し、引き分けとなりました。

「買い物競走」、「物干しリレー」等も笑いと拍手の中で進められました。

各種徒競走や「母子リレー」、そして、運動会最後の種目の「町内会・自治会リレー」は、それぞれの代表選手が、赤地に「広袴」の白抜きゼッケンを付けて、町内会の大きな声援を背に懸命に走り、運動会に花を添えてくれました。

昼休みのアトラクションでは、「町想い」のグループが、グラウンド一杯にお揃いのユニホームを身に付けて踊り、町想いの雰囲気が出ていました。

「みんなで踊ろう」の「健康音頭」は、音響装置の不具合で途中で終わり残念でした。次回までに音響装置を調整願いたいものです。

その他会場内には、「体脂肪」・「握力」・「肌水分」・「骨密度」等の健康チェックが無料で行われ、参加者から歓迎を受けていました。

町内会の運動会は、成績が最終目的ではなく、参加することで近隣との輪を広げ、絆を強くすることに大きな意義があることを再確認しました。「また来年、元気に会いましょう。」を合言葉に散会しました。

【若井定利】

新春インタビュー
全国大会出場！二中合唱部に聞く



10月25日、石川県の金沢歌劇座で、第六十二回全日本合唱コンクールが行われた。中学混声合唱の部18校の内、10番目に登場したのが、我らが鶴川第二中学校（東京都代表・佐藤昇校長）だった。二中の合唱部員は42人。その中で、広袴に住む5人に全国大会に出場した感想と今年の抱負を聞いた。

(提供・朝日新聞社)

（記者）まずは全国大会出場、そして銅賞受賞おめでとうございます。大観衆を前に歌った感想をお聞かせください。



（皆さん）緊張ですか？ しませんでした、まったく。大舞台は、けっこう経験しているからかな。去年も。小学校の時も。本番直前まで話していたり、リラックスしてました。でも、歌い終わった時、拍手がすごかった。ほんと、びっくり。感動しました。

（記者）ずいぶん難しい歌を歌ったとも聞きました。

（皆さん）『河童と蛙』は一年の教科書にも出ている草野心平さんの詩で、最初は子どもっぽいなと思いましたが、楽しく歌えました。もう一つの『露営のともしび』（アポリネール作詞・堀口大学訳の無伴奏混成四部合唱）は初めて聞いた時は「これ、歌えない！」って驚きました。音は高いし、テンポは取りにくいし、しかも、伴奏ないし。「楽しいのと難しいのと、どちらも歌いこなせる実力をみせつけよう」と真鍋先生は言うけど：ねえ。でも、練習するうちにだんだんうまくできるようになってきて。よし！ って思っていたら、新型インフルエンザ！ 学級閉鎖もあって、最後の詰めができなかったのが悔しかったです。

（記者）金沢への遠征。一番印象的だった事は？

（皆さん）巖門っていう観光名所で歌ったことかな。大会の翌日、能登半島を観光中、先生がいきなり「ここで歌いましょう」って。



(提供・鶴川第二中学校合唱部)

最初はサビだけだったのに、観光客が集まって拍手してくれると、先生もとまらなくなり…。結局、5曲くらい歌いました。遊覧船をおりて足を止める人たちに、校長先生が「実はこうこうで」と説明してくださっている姿も印象的。素敵な思い出になりました。

（記者）最後に皆さんの今年の抱負を教えてください。

（3年高桑さん）「小4の時に引越してきて二小、二中 で本格的な合唱と出会えたことに感謝しています。高校に入ってもこの経験を生かしたいです」

（2年森嶋さん）「1年生の時から全国大会に連れて行ってもらっているので、最後の年もがんばり、3年連続全国大会出場」を実現したいです」

（1年五十嵐さん）「今回は銀はとろう！と言われていたのに、細かいミスがいくつも出て、残念でした。今年こそは、銀以上を取りたいです」

（1年近藤さん）「去年も今年も銅賞だったので、今度は違う色の賞をとりたい。そのために、新しく入ってくる1年生をリードしていきたいです」



（1年澤田くん）「えっと、1年男子は合唱部員では僕だけですが、今度入ってくる新人を鍛え、男声パートを引っ張っていきたいです」

（記者）ありがとうございます。今年も活躍を期待しています。

【篠田道秀】

- | | |
|------|-------|
| 広報部長 | 猪原伸彦 |
| 副部長 | 吉川佳助 |
| 編集人 | 能勢洋也 |
| | 篠田道秀 |
| | 若井定利 |
| | 大倉ナミ子 |
| | 幡野仁美 |
| | 五味 健 |
| | 丸山裕二 |
| | 佐保文章 |